

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

| | |
|---------------|----------------------------------|
| 事業所番号 | 2472000120 |
| 法人名 | 医療法人(財団)佐藤病院 |
| 事業所名 | グループホーム ながしま |
| 所在地 (電話番号) | 桑名市長島町福吉268 (電話) 0594-45-1150 |
| 評価機関名 | 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成 20 年 10 月 24 日(金) |

【情報提供票より】 (H20年8月20日事業所記入)

(1)組織概要

| | | | |
|-------|------------------|----------------------|-------|
| 開設年月日 | 平成 12 年 10 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 8 人 |
| 職員数 | 26 | 常勤 21人, 非常勤 5人, 常勤換算 | 20.5人 |

(2)建物概要

| | | | |
|------|--------|-------|-------|
| 建物構造 | 鉄骨 造り | | |
| | 2 階建ての | 1 階 ~ | 2 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|-----------------|----------------|-------------------|
| 家賃(平均月額) | 60,000 円 | その他の経費(月額) | 1,000~2,000 円 |
| 敷金 | 有(100,000 円) 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 (期間10ヶ月) |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 700 円 |
| | 夕食 | 700 円 | おやつ 1,500 円 |
| | または1日当たり 1,700円 | | |

(4)利用者の概要(8 月 20 日現在)

| | | | |
|-------|---------|---------|----------|
| 利用者人数 | 26 名 | 男性 6 名 | 女性 20 名 |
| 要介護1 | 4 名 | 要介護2 | 7 名 |
| 要介護3 | 9 名 | 要介護4 | 5 名 |
| 要介護5 | 名 | 要支援2 | 1 名 |
| 年齢 | 平均 86 歳 | 最低 73 歳 | 最高 101 歳 |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|--------|
| 協力医療機関名 | 長島中央病院 |
|---------|--------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道23号線揖斐、長良川を名古屋方面に渡ったところに母体の病院、老健、高齢者生活支援集合住宅(ナイスケア)が見えてくる。その一角に事業所がある。平成12年に1ユニットからスタートし、3年後別棟2階建ての2ユニットが開始された。それぞれ独自性があるが、介護長のリーダーシップのもと連携よく運営されている。交通量の多い国道から少し中に入っており、周りは新興住宅地が広がって静かな環境である。母体が病院で隣接しているため、利用者、家族、職員がいつも安心した生活を送られている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 昨年指摘された改善点について、職員間で話し合われた。運営する法人と連携をとりながらできるところは取り組んで行く姿勢である。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 本年度の自己評価は、各ユニットのリーダーが職員に聞き取りをして報告書がまとめられた。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 当初、運営推進会議は2ヶ月に1回開催されていたが、最近3ヶ月に1回の開催になっている。利用者の家族の方も積極的に意見、質問などが出され、活発に話し合いがされている。今後、参加メンバーに自治会からの参加も要請し、参加者の柔軟性をもたせ、ぜひ2ヶ月に1回開催されるよう期待したい。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 毎月必ず家族の面会があり、家族とのコミュニケーションはよい。さらに家族の思い、意向を把握するためにも、運営推進会議に家族の参加を各ユニットから参加を要請し、思いが表出できるよう期待したい。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| 重点項目④ | 母体の法人が地域との窓口になっており、直接地域でのお付き合いは少ない。散歩での挨拶、近くの小学校の運動会や地区の行事に招かれたり、事業所のクリスマス会、ひな祭りなどの行事に地域の方を招いて交流をしている。 |

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 2年前に、地域密着型をふまえて地域との交流を意識した基本方針、基本理念が作られている。 | | |
| | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は分かりやすい言葉で示され、職員に浸透している。たとえば「いつも笑顔で」と掲げられているが、利用者に接する姿勢としてやさしい笑顔はやさしい言葉、態度に結びつき、穏やかなゆったりした介護が実践されている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| | 3 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 母体の法人が自治会に加入しており、共同作業に出たり、地区の行事に参加したり、小学校の運動会に招かれ、その後小学生からカードを贈ってくれるなど交流している。事業所のクリスマス会等に地域の方をお招きしている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| | 4 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価は各ユニットごとのリーダーが職員に聞き取りまとめて報告された。介護長はじめ職員は自己評価、外部評価を実施する意義をよく理解している。 | | |
| | 5 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 推進会議は2ヶ月に1回が最近3ヶ月に1回になっている。会議では意見、質問等々活発に話し合いがされている。 | ○ | 自治会代表、また民生委員、各ユニットごとの家族など、柔軟に参加者を要請して、2ヶ月に1回継続した会議の開催が望まれる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 行政へは、母体の法人が窓口となっている。行政担当者、地域包括支援センターとの連携を密にし、情報交換をするよう心掛けている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 年に2回ホームたより「GHながしま通信」が発行され家族へ送付されている。家族の面会が月に1回以上あり、その時にいいこと、悪いことすべて伝えコミュニケーションをよくとることを心がけており、何でも話し合える関係作りが構築されている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時に様子を知らせたり、要望を聞くようにしている。特に要望は言われていない。外部者へ表せる機会として、重要事項説明書に記載され契約時に説明されている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 異動があれば、介護長からきちんと紹介し利用者に混乱はない。職員の配置は固定化されて異動は少ない。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 系列の老健での研修に参加したり、県のグループホーム連絡協議会に加入しており、そこでの研修にも順次参加している。資格取得を目指す職員もいる。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会での交流がある。本年度グループホーム連絡協議会が県の大会を企画し実行されたが、その実行委員として2名が携わり成功させている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用者、家族に見学してもらい納得のうえ入居してもらっている。体験入居も可能である。半年前、諸般の事情から、本人が理解できぬまま入られ、慣れるのに相当時間を要した経験もあるが、その人に寄り添い、何が好きかしたいことを見だし、気持ちに沿ったケアを心がけ、今はようやく穏やかになりつつあるところである。 | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | いい所をほめて一緒に楽しむよう心がけている。朝夕にする体操は利用者、職員が毎日一緒に取り組んで健康維持に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 寄り添うケアが実践されており、その日の表情、言葉、様子などから思いをゆっくり聴いて意向に沿うよう心がけている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 職員のカンファレンスで話し合いがされ、またあらかじめ家族にも相談し介護計画が作成され、家族の同意を得ている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 見直しは3ヶ月に1回されており、状態に変化があるときは、随時の見直しがされている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 母体の病院への受診に職員が同行したり、買い物に行くなど柔軟に支援している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 母体が医療機関で、隔週医師の往診があり、利用者の状態は把握してもらっている。それ以外にかかりつけ医への受診は家族がしているが、あらかじめ情報をお知らせし、受診後、家族から所見を聞いている。職員はいつでも母体の医師や看護師に相談ができる体制である。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 母体の病院との連携ができており、ターミナルにむけて医療行為が伴うことなどから入院となるが、あらかじめ利用者、家族へ十分な説明をしており納得されている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 言葉遣いや排泄介助などプライバシーには配慮している。個人情報がかかれた書類等は、事務所に保管がされている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入所から長く経ち、80代後半90代の方が多く、ADL(日常生活動作)も低下している方が多い。毎日を日課通りに進めるのではなく、ゆったり穏やかに過ごしてもらうことを最優先に考えている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|---|---|------|--|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は系列の老健で調理されたものが配達されている。ほとんどがやわらかめに調理され、ペースト状にされている方もある。利用者に食事介助が必要なため、職員はもっぱら介助にあたっている。配膳や片付けはできる利用者には手伝ってもらっている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は各ユニットごとまちまちである。1ユニットは隣接のナイスケアが温泉湯を利用しているので、そこで一日おきに入浴している。ほかの2ユニットは週1回お休みで、それぞれに設備されたお風呂で入浴されている。時間はほぼ午後になる。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 生活歴を聞き、得意なこと、なつかしいことを思い出しながらレクリエーションで楽しみを支援している。畑で収穫した物でおやつ作りをして楽しんでいる。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 通院したり、天気の良い日には散歩に出掛けたり、希望により外食など外へ出かける支援をしている。 | ○ | 中庭にベンチ等置くなどの工夫をして、気軽に外気浴ができる環境作りに期待する。 |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵はかけられていない。また職員も鍵をかける弊害をよく理解し、徘徊など適切に対応している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 毎年2回併設の施設合同の消防署の指導を得て訓練を行っている。また、併設の老健は地域の避難場所になっており、系列の施設が連携し非常事態に対応する仕組みになっている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事は系列の老健の栄養士による献立で提供している。水分補給は、食事やおやつの時、風呂上りや就寝前等々に水分を摂るよう心がけている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感のする飾りを工夫したり、季節折々の花が飾られて優しい雰囲気伝わってくる。空気の流れ替えを毎朝している。リビングは広く明るく寛げる場所となっている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室にクローゼットが配備され収納されている。持ち込みが少なくさっぱりしている方や、仏壇や素敵な椅子等持ち込まれている方などそれぞれ自分好みの居室になっている。 | | |